

1997年4月19日 長野浅間温泉

すっかりヒメギフチョウをあきらめて、もう少し下の畑地斜面に乱れ咲くセイヨウタンポポの黄色い絨毯を芸術的映像として Video に納めようと準備していたそのとき、やや黄色っぽい蝶がタンポポの群落を覆うように咲いているモモの花を訪れる。憧れのヒメギフチョウだ。ひとつの花でゆっくり吸蜜するという期待ができない動きに Video よりもネットを選んでしまう。そのうち、複数の新鮮なヒメギフチョウがぽつぽつと現れ、土手際に咲く黄色いタンポポを転々と吸蜜するきれいな『春の女神』のスナップをкаろうじて Video に納めることができ大いに満足。道路沿いの小川の縁を下流からさかのぼってくるヒメギフもいて、山側の枯れススキの間に隠れるように舞い下りて姿を消す。食草があって産卵目的で入り込んだものと思われ、小川を飛びわたって辺りのブッシュを探したが蝶も食草も発見できないまま元に戻る。テングチョウやCータテハの完全越冬成虫も遊んでいて、テングチョウは好んでモモの花で吸蜜し、セイヨウタンポポの黄色い花にはCータテハのオレンジがとても良く似合うが動きが速くて Video 撮影はできず。



1997年5月3日 北海道厚田村濃屋

大きな急カーブで見通しが悪い上になかなか途切れない車の列をなんとかしのいで林道に入る。沢の流れがとてもみずみずしい。水辺できれいなルリシジミ♂が吸水しているがスギタニルリではないのでそのまま先に進む。林道の手前を大きく右手に進んだ斜面に咲くセイヨウタンポポには、この日もエゾヒメギフチョウが訪れており、さらには道路沿いを直線的に飛翔する個体もすんなりネットインでき、労せずには♂♀1ペアをゲットしてここを訪れたことが正解であったと満足する。クマザサの茂みを縫うように飛ぶ個体もみられ、食草のオクエゾサイシンが自生する



道なき斜面をよじ登ってみると、クマザサの根元に美しい濃いピンク色のサクラソウがひっそりと咲いており、この花の蜜を求めてエゾヒメギフチョウが舞っていることが分かる。先ほどのタンポポの花をもう一度チェックすると今度はヒメアカタテハが訪れている。その後、エゾヒメギフチョウは姿をみせず、あいかわらずクジャクチョウとCータテハが飛び立つ林道を下りながら周辺

の山肌を彩る樹々の若葉が本当にきれいで何度か振り返ってしまう。まさに後ろ髪をひかれる思いである。立ち去ってしまうのを名残惜しく感じつつ、ついには山を離れてバス停に向かう。